

**「建築技術」2014年7月号 読者コーナーQ&A
【鉄筋コンクリート造の接合部の検討について】**

WEB 講座-21 は、「建築技術」2014年7月号 読者コーナーQ&A の回答原稿を執筆しました【鉄筋コンクリート造の接合部の検討について】をご紹介します。

ご質問の趣旨は、鉛直スタブ付き L 形接合部の場合、接合部せん断強度の算定に用いる形状係数 κ を、L 形接合部の $\kappa=0.4$ とすべきか、T 形接合部の $\kappa=0.7$ としてもよいかということです。

鉛直スタブ付き L 形接合部については、RC 計算規準 17 条の解説では、柱梁接合部の上部に梁せいの 1/2 以上の突出を有する鉛直スタブ付き L 形接合部の場合、梁上端筋の水平投影部分の定着を期待してもよいとしています。そのため、L 形接合部の $\kappa=0.4$ とすべきか、T 形接合部の $\kappa=0.7$ としてもよいかという疑問が生じるのだと考えられます。

同 17 条は定着の規定ですので、柱梁接合部のせん断強度について言及していません。つまり、同 17 条では、鉛直スタブ付き L 形接合部の場合、梁上端筋の定着部は、ト形接合部内の梁主筋定着部と同様の標準フックとしてもよいことを示しています。

本稿では、鉛直スタブ付き L 形接合部の実験結果を考慮し、一貫構造計算プログラムで接合部せん断検定を行う場合、鉛直スタブの有無に係わらず、 $\kappa=0.4$ とすべきだとしています。

(注記)

本稿は、(株)建築技術の了解を頂き、当機構 HP の WEB 講座に掲載したものです。